

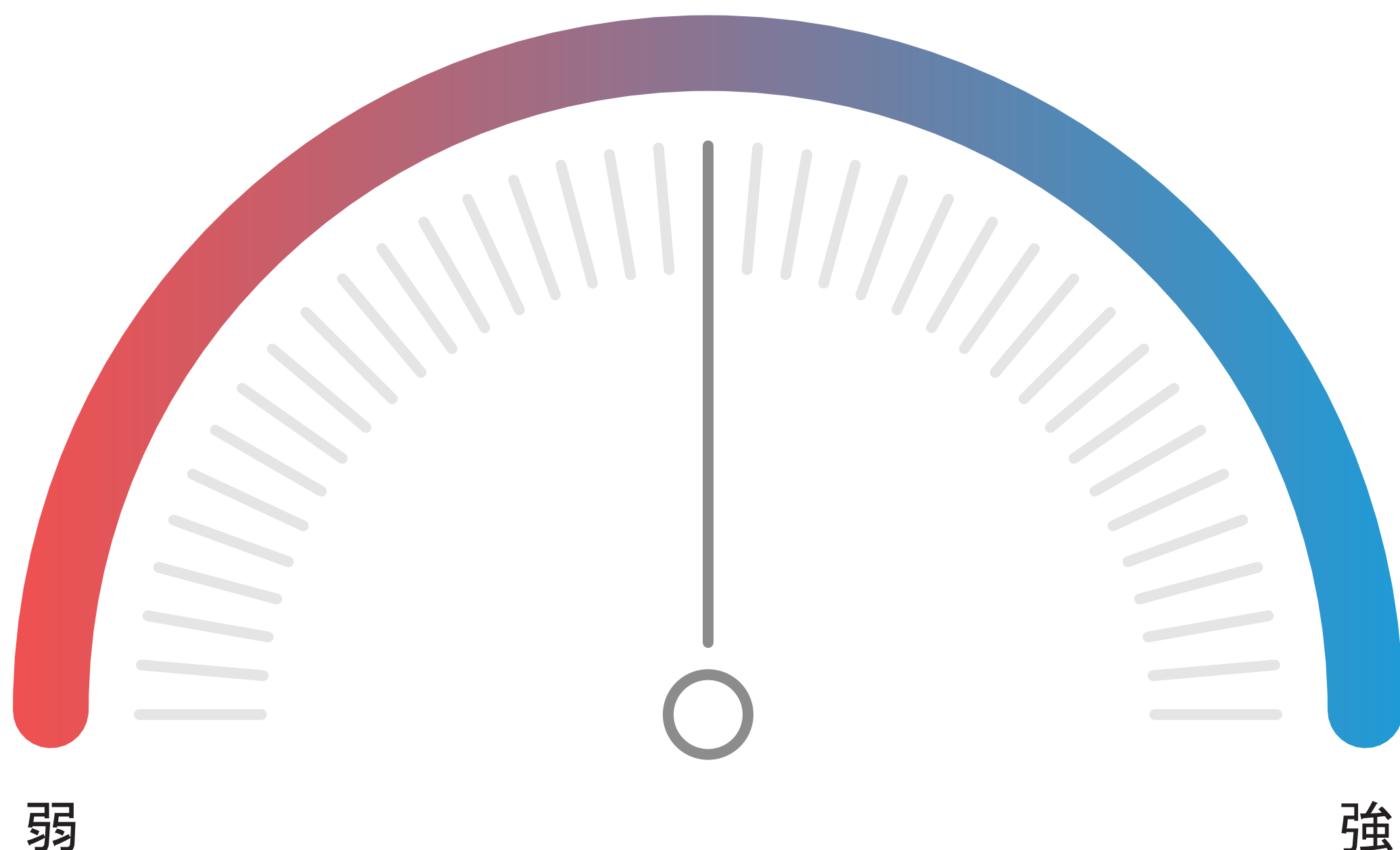
世界景気バロメーター

2018年7月

世界経済は2018年も堅調な成長が見込まれるが、2019年は若干鈍化することが予想される。米連邦準備制度理事会(FRB)は金融政策の引締めを継続し、欧州中央銀行(ECB)は2019年に利上げを行うと見られる。

インフレ・リスクは高まっており、長期的な構造要因からインフレ率は今後数年間はより高い水準で推移する見通し。主なリスクとして、米国発の貿易戦争と欧州における政治的不透明性については注視が必要。

経済成長



見通し

- + 世界経済は2018年も潜在成長率をやや上回る成長を継続
- + 年初の指標の弱さは一時的
- + 景気サイクルが成熟し金融環境が引き締まるにつれ、2019年は成長率がやや鈍化する見通し

リスク

- + 米国発の貿易戦争
- + 欧州における政治的不透明性
- + 市場主導による金融環境の引締め

インフレ率



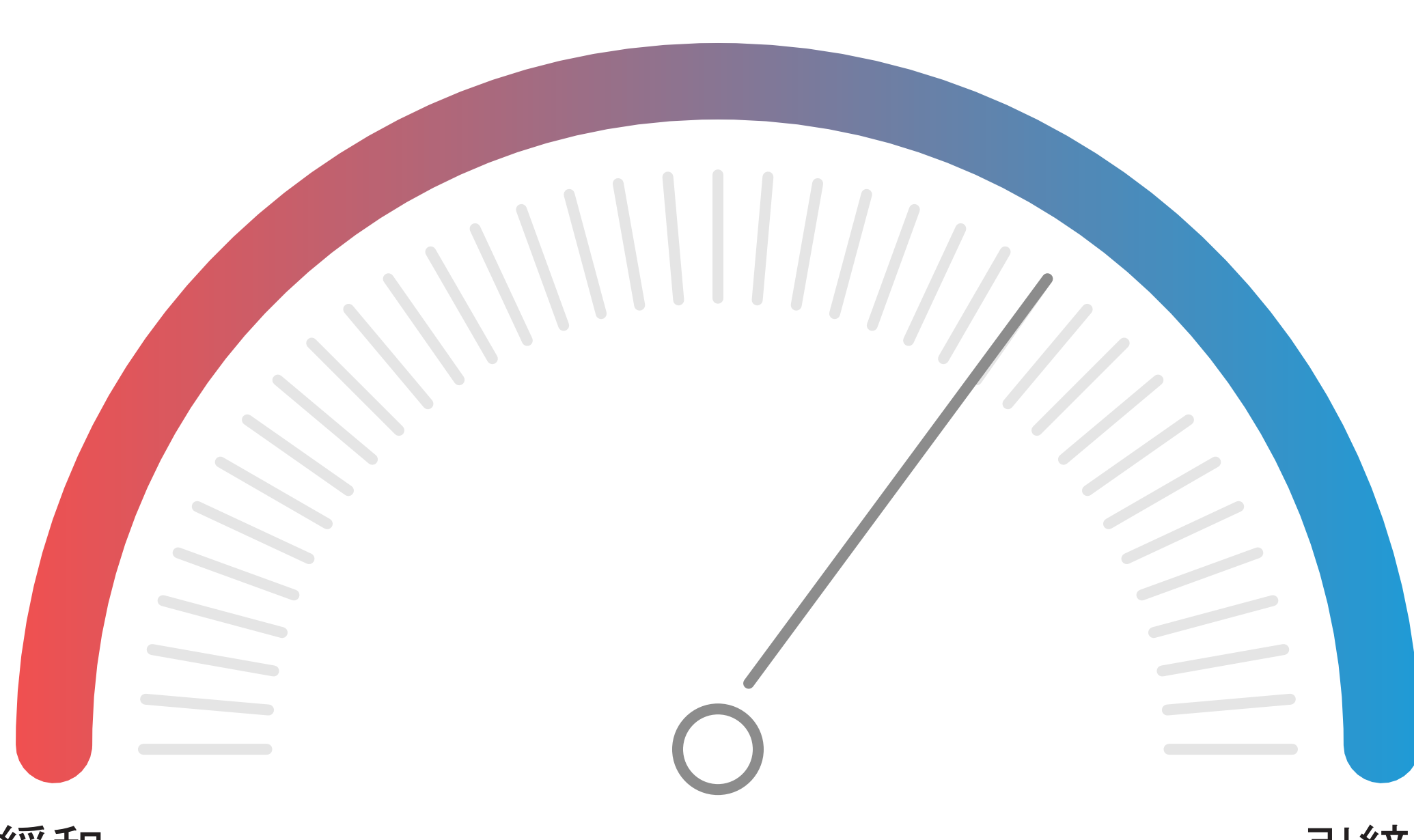
見通し

- + インフレ率が2018年に急上昇する可能性は低いが、供給面の制約からそのリスクは上昇している
- + 構造要因や循環要因により物価上昇圧力は徐々に高まる可能性

リスク

- + 失業率と賃金の関係を表すフィリップス曲線は今でも有効か？
- + 労働市場の需給の不確実性
- + 原油価格の変動

金融政策



見通し

- + FRBは利上げを継続する見通し。FF金利の市場予想は2018年末が2.38%、2019年末が3.38%
- + ECBは年内に量的緩和を終了し、2019年末までに政策金利を0.25%に引き上げる見通し
- + 日本銀行は当面政策維持

リスク

- + 市場主導による金融環境の引締めにより、金融政策変更の必要性が低下
- + 欧州における政治的不透明性

出所: AB

本文中の見解はリサーチ、投資助言、売買推奨ではなく、必ずしもアライアンス・バーンスタイン(以下、「AB」)ポートフォリオ運用チームの見解とは限りません。本文中で言及した資産クラスの過去のパフォーマンスは将来の運用成果等を示唆・保証するものではありません。

当資料は、2018年7月9日現在の情報を基にアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーが作成したものをアライアンス・バーンスタイン株式会社が翻訳した資料であり、いかなる場合も当資料に記載されている情報は、投資助言としてみなされません。当資料は信用できると判断した情報をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。また当資料の記載内容、データ等は作成時点のものであり、今後予告なしに変更することがあります。アライアンス・バーンスタインおよびABはアライアンス・バーンスタイン・エル・ピーとその傘下の関連会社を含みます。アライアンス・バーンスタイン株式会社はABの日本拠点です。



アライアンス・バーンスタイン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第303号
【加入協会】一般社団法人投資信託協会 / 一般社団法人投資顧問業協会 / 日本証券業協会 / 一般社団法人第二種金融商品取引業協会
<http://www.alliancebernstein.co.jp>